

【卒業生 学術活動報告】

診療情報管理士学科 (2018年3月卒業) 竹内 僚哉さん

No.1. 学会発表

演題名： チームで取り組むレポート既読管理がもたらす医療安全の向上について

発表年月日： 2024年2月17日

学会名： 日本医療マネジメント学会 第18回 奈良支部学術集会

概要：

【目的】

医療において、患者に対する説明は義務である。しかし、ヒューマンエラーによる患者への説明不足、検査結果の見落としは起こり得るものである。レポート既読管理システムを導入し、状況確認や注意喚起を行うことによって医療安全の向上を目指す。

【方法】

令和5年度4月のシステム稼働に先がけ、1月より関係部門の多職種で構成されたレポート既読管理対策チームを立ち上げ、設定についての会議を行った。3月には既読処理の操作研修を医師に対して、2日間で計6回行った。また、参加できない医師にも理解を得るために、動画を院内配信し共有した。稼働6ヶ月後にはシステムに対する要望についてのアンケートを実施し、設定の修正を行った。また、チーム会議を月1回開催し、既読までの日数を数値化・グラフ化し、チーム内でデータ共有した。院内全体に対しては、医療安全管理委員会に報告することで共有を図った。

【結果】

稼働1ヶ月目である4月の早期レポート既読率(確定後7日以内の既読)は59.4%であったが、6ヶ月目の9月は77.1%となり、大幅に増加した。また、確定後30日以上経過した後に既読された割合についても、4月が2%であったが、9月は0.03%と低下した。

【考察】

管理者を多職種(診療情報管理士、診療放射線技師、臨床検査技師)にしたことにより、「事務サイドからは、医師に対してのアプローチを実施し、「コメディカルサイドからは、レポートシステムと管理システムとの連携確認」など、チームとしての取り組みができた。院内に対して、情報発信を続けることで認知度が上がり、周知に繋がると思われる。

【結論】

今回の既読管理システム運用によって、院内の医療安全は向上する。多職種が関わる体制を構築することで、安定した運用が出来る。

患者に安心して医療を受けてもらうために、病院全体で協力して、更なる医療安全の向上を目指していく。

掲載 URL <http://jhm-nara18.umin.jp/>